

# おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 12 号 (8 月 23 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 合宿・遠征・ボランティア活動 夏休みを忙しく終え

いよいよ山形東高校の2学期<sup>1</sup>が始まりました。何と、8月17日(金)から！早い、早すぎる夏休み明け。山形東高校最大の企画である山東祭という名の学校祭が8月24日(金)～26日(日)に控えている<sup>2</sup>ため、1週間は準備期間が必要との判断から、例年よりも早めの休み明けとなりました。夏休みの入りが7月19日(木)だったので、ほぼ1カ月の夏休み期間であったと形式上言えますが、勉強重視の山形東高校、学生にそんなに休みを与えるわけがない！！早く夏休みに入るのは、そこから(19日から)7日分または8日分に及ぶ夏期講習が入るからであって、県内の高校の中で実質的な夏休み入りが最も遅い部類に入るのは間違いない。8月末には例年或る大学のオープンキャンパスに2学年が全員参加することとなっている(2学年にとって8月30日は授業日であった)ため、宿泊等伴って遠出できるのが8月31日(火)から。

まず早速8月31日から2泊3日で月山合宿。暑い「下界」と異なる涼しい高地にてトレーニングし、合宿の効果を高めようと近年行っている。今年で4年目。山東サッカー部では30年以上前、学校での夏合宿において熱中症にて部員の丸子さんがお亡くなりになる、という痛ましい事故が起こっており、それを反省して、翌年から蔵王での合宿を続けてまいりました<sup>3</sup>。しかし毎年お世話になっていた旅館が残念ながら5年ほど前に火事で焼けてしまい、それ以降、高地+天然芝の環境である月山の弓張平で合宿をしております(宿舎は志津温泉「月山の宿かしわや」さんにお世話になっております)。ただ、涼しい高地というものの、今年の夏はちょっとした山の上でも、暑い暑い。熱中症には気をつけなければと思い合宿に入りましたが、残念ながら一人熱中症で倒れてしまう。合宿直前に起こった山形中央ラグビー部での不幸が頭をよぎり、すぐ救急車を呼び病院に搬送してもらい大事には至りませんでした。本人およびご家族に多大なるご迷惑をおかけしました。この場をお借りし、再度お詫び申し上げます。さて、天然芝でのサッカーの練習と恒例の月山登山(112号線から姥沢駐車場までの11kmの山道ラン

<sup>1</sup> 正式には山東は二学期制のため、9月末をもって前期が終了し、10月から後期が始まります。

<sup>2</sup> 夏休み期間中の8月は勉強に集中するため、その期間学校祭の準備をすることが禁じられています。よって学校明けての1週間の準備がとても重要となるわけです。一般公開は、8月25日(土)10:30～16:00、26日(日)10:30～15:00となっております。実行委員長はここ数年サッカー部から出ず流れが続いており、今年の委員長は3年のゴメ。ちなみに副委員長もサッカー部3年のオオヤマです。皆さん、ぜひお越しください。

<sup>3</sup> 丸子さんのご家族からサッカー部に寄贈していただいた武旗とテントは、今も、大切に利用させてもらっています。丸子さんと保護者会の丹野さんがサッカー部の同期であり、二度とあのような悲しいことが起きないでほしいというお話は、昨年度の保護者会歓迎会にてご披露されましたので、2・3年の部員・保護者の方は記憶しているかと思います。

ニング)。昨年は60分を切る者が3名いて、今年は何人いるかと楽しみにしてましたが、サッカー部一の強心臓である係長ことユウダイが怪我明けだったこともあり、今年は一人も切る者おらず。この点残念でしたが、65分以内の選手は例年より多く、この点は心強く感じました。ビリは91分のケッツンことオオノ。「オメ～去年のオレより遅いな～」とゴール地点で勝ち誇ったのは昨年ビリの自称「昨年は90分」のコテッチャン<sup>4</sup>。しかし、昨年の部報をよく読むとコテッチャンの昨年のタイムは96分……。最後にみんなで記念撮影し下山し、また練習して、月山をあとにしました<sup>5</sup>。保護者会の皆さま、激励金ありがとうございました。丹野2学年委員長、ガリガリ君と大変おいしいキュウリの一本漬けの差し入れ、ありがとうございました。「この、いつも食べているキュウリの味で家を思い出しました」とは、代表してお礼したヨシタカの言葉<sup>6</sup>。

そして8月4日(土)は山東サッカー部恒例のOB戦。今年は、40歳を迎える年の先輩が多数駆け付けて下さる。顧問今野の高校時代の先輩でもあり、顧問としてとても心強く、うれしく感じました。ここ最近では、現役生がOBに「現役らしさ」を見せつける、というより、OBが現役生に「サッカーなるもの」をピッチで知らしめる、という類のOB戦が多いのですが、今年もまさにその通り。「うまいなあ～」と感嘆する対象は常にOB……。現役生を指導する顧問としては、かなり寂しい。いや、悲しんでいる場合ではなく、反省しなければいけないんですよね。そろそろ、「今年の現役は強いね～」と言わせたいんですが。来年の課題です。プレーが終わってからは、中庭で恒例の佐門のモツ煮に舌鼓。ドリンクも進む進む。今年はアメリカ在住の大OBも駆け付けて下さり、激励の言葉も頂戴しました。山東サッカー部が、巣立つ場でもあり、帰ってくる場でもある、ということを確認した一日となりました。先輩方、ありがとうございました。

8月7日(火)から10日(金)までは、これまた近年恒例の苗場グリーンカップに参加。苗場と聞くと毎年思い出すが、キジマの代で初参加した時の思い出<sup>7</sup>。宿舎からサッカー場までの移動はランニングのため、サッカー場で鍛えられるだけでなく、宿舎を離れた段階で既にトレーニングに入っていることになる。昨年までの宿舎よりもさらに遠い宿舎があり、ランニングでさらに追い込むことができると、今年は申し込みの段階で「グラウンドから一番遠い宿舎をお願いします」と告げる。果たして、一番遠いホワイトパレスさんに配宿されるものの、対戦表を確認してビックリ。初日、二日目の全日程、グリーンカップ本会場とは別にあり宿舎から徒歩3分の浅貝グラウンドでの試合が組まれている！「これでは一番遠いところをお願いした意味がない……」とは顧問の嘆きですが、選手はホッと胸を撫で下ろした模様。ともかくも、試合時間に関わらず、5時半起床、6時朝食、6時50分移動開始のスケジュールで、1日2試合のゲームだけでなく、空き時間を体幹トレーニング、ランニング、ボールトレーニングに明け暮れる3泊4日。過酷ですが、体と心を追い込むこと(理不尽なことに慣れること)が夏合宿では必要ですので。山形の高校サッカー界を長年牽引したある指導者が「サッ

<sup>4</sup> 昨年より大分記録を縮めました。

<sup>5</sup> 記念の写真は、山東サッカーOB会HPでご確認ください。

<sup>6</sup> 最初、キュウリの一本漬け、高校生食べるかな、と不安に思いましたが、高校生食べる食べる。ガリガリ君よりも人気があったような気がします。

<sup>7</sup> 気になる方は23年度部報第14号をご覧になってみて下さい(HPで検索してみてください)。

カーという競技そのものが理不尽なことだらけ」と仰っておられましたが、まさに至言。理詰め（理論・計算・合理性）ですべてを割り切れない世界だからこそ、理に外れたこと（理不尽なこと）への耐性を築くことがより広い意味での合理的な行動（サッカーという競技にマッチした行動）につながるのです<sup>8</sup>。

さて、ゲーム自体を振り返りましょう。大会当初、顧問は「色々要求したいことがあるが、一つ大きなことを言うと、空中にあるボールに対して必ず手を上げ『任せろ』と声を出してヘディングするように」と注文を出す。山形東、誰もヘディングに行かない「お見合い」や、ヘディングする人が重複する「ダブリ」が毎試合必ず見られる。まず声を出して連携を取るという当たり前のことができないことには話にならない。しかし！ こう注文を出した直後の試合（ということは大会初日）で、声を出さずに味方同士がボールをヘディングしに行き、二人の頭がゴツンコ。そのうち一人は頭を4針縫う裂傷を負う。注文を出した直後の試合なだけに、簡単なことを徹底してやれない選手達に大激怒。全体に対して、選手達のこの有様を大叱責。けが人まで出て、さすがに翌日からは声を出して連携を取ろうとしており、そのことが浮き球のヘディング対応だけでなく他の面での連携にも好影響を及ぼしておりました。Aチームはボヤっとした（はっきりしない）内容・結果の試合続きでしたが、試合中に自分たちが上手くできないことへのフラストレーションがまずあり、他の選手への叱咤激励につなげている。今年の苗場では、「どうしてこういう試合をして、お前たちは悔しさを表に現さないんだ」というような、怒らないということに怒っておりましたが、選手同士しっかり気持ちをぶつけ合っており、その点では成長を感じ取ることができました。Bチームは、幅を使ったゲームが少しずつできるようになり、最終戦の鶴岡南 B 戦では集大成として白熱した試合を繰り広げる。山東 B は、B チームとして単独で県リーグに参加しておらず、勝ち負けにこだわる試合の経験が足りないのですが、この新潟の山奥での山形対決では、選手も観る側も手に汗握る好ゲームを演じておりました。選手一人ひとりのスキルを比べるに、鶴南 B に対し山東 B は明らかに劣っているように感じましたが、連携や球際の気迫で勝って粘り強く戦い、スコアは惜しくも3 - 4で敗れるものの、観ていて本当に楽しかったです（観ている人が楽しいということはやっている選手も楽しめているものです、逆は必ずしも成り立ちませんが）。毎年のことですが、夏の大会は B チームに見ごたえがあるものです！ A、B とも、結果は凡庸でしたが、過酷な日程・トレーニングのなか、自分たちの足りない所と正面から向き合うことのできた、そんな苗場でした。

翌8月11日(土)は、山東サッカー部で石巻にボランティアに出かけました。「NPO 法人国境なき奉仕団チーム山形」内に結成された東日本大震災災害復興支援団にコーディネートしていただき、ボランティア実施と相成りました。もともと、ボランティアなどの、社会体験活動というかサッカーや勉強以外の活動にもトライしたいと考えていたものですから、平成24年7月11日付の山形新聞で国境なき奉仕団の記事を拝見し、参加希望者を募っていることを知り、こちらからお願いのコンタクトを取りました<sup>9</sup>。

<sup>8</sup> ですから私は、科学的なトレーニングの薄っぺらさに敏感な、根性論者です。卑近な話ですが、映画『ロッキー4』で、科学的なトレーニングを積んだイワン・ドラゴを、伝統的で素朴なトレーニングにて打ち破るロッキー・バルボアに、トレーニングの一つの真実を見出しています。

<sup>9</sup> 直接のきっかけは新聞記事を読んだことですが、昨年大震災がらみで山東の中でオムツを運ぶボラン

当日は支援団から団長の遠藤さんを含む3名の方が引率して下さいました。まずは、津波で住宅が流され、だだっ広い平地になったところに案内して下さい、全員で黙祷をささげた後、従事する場所で現地のボランティアの方と合流。午前は2年生がドブさらいで1年生が草取り、午後は逆、という形で活動。当初、動き・返事が遅く、支援団の方や現地スタッフの方から雷を落とされて活動をスタートさせたも同然でしたが、いざ動き始めると、頼もしいくらいに自主的に動いており、一安心。支援団の3名の引率者の中で山東同窓会役員にもなっている方から「ボランティアっていうのは自主的活動なんだ。先生から連れて来られ嫌々やってるんだったら帰れ！」と一喝されましたが、活動の最後にはお褒めの言葉を頂戴しました。顧問として、部員の動き・返事が遅く怒られる、というのは、こちらの指導不足を問い正されているようで恥ずかしかったのですが、社会体験活動を通し選手と顧問だけの閉ざされた集団に社会と通じる風穴を開けてもらい、ありがたかったです。次回は、最初から褒めていただけるように指導していきます！さて、午前のドブさらいは、初級中の初級編みたなもので、さほどじゃなかったのですが、午後の個所は中級編と呼ぶにふさわしい強敵であり、不慣れなわれわれは手こずりました。1年のドイツちゃんとリンちゃんのクレンザーコンビ<sup>10</sup>は「返り血」を浴び、一生懸命な活動がうかがえました<sup>11</sup>。継続して今後も活動していきたいと思います。

## Y1 東海戦 焔焔の完敗

U16 県トレセンとのエキシビジョンマッチを含めれば夏休み前までのY1にて3連勝の山形東。夏休みを挟み、トレーニングの成果が試される。山東は、上述のように忙しく夏休みを過ごしましたが、どこまで成長を実感できるか。相手の東海は、Y1にてここまで全勝。インターハイに出場しベスト8まで進み、山形のサッカーを全国に知らしめた羽黒<sup>12</sup>に対しても、インターハイ前のY1の対決では3-0で一蹴している。完成形に近づきつつある東海を相手に厳しい戦いが予想されますが、去年は、今年と同じく夏休み明けのY1にて、敗れながらもかなり内容の良い戦いをすることができて、東海のスタッフからもブログにて褒めていただいたことを記憶している。「夏休み明け一発目の東海戦、ん～これは因縁か」と感じながら、試合に臨む。

試合が開始されると、単純に東海の波状攻撃を跳ね返すことができず、一方的に押されまくる。ただ、ゴール前でしっかり跳ね返せば、押されながらも失点はしない戦いができるのだが、DFはバタバタするばかりで、クリアを大きくすることすらまなら

---

ティアスタッフが募集された際に、サッカー部から誰ひとりとして応募した生徒がいなかったことにショックを受けた、ということが伏線としてあります。顧問も、口先だけでなく行動しなくては、と思いつけて続けておりましたので、新聞記事は渡りに船でした。

<sup>10</sup> この言葉の由来はかなり内部情報ですので、どうしても気になる方は山東の1・2年生の部員に聞か、顧問に直接聞いて下さい。

<sup>11</sup> 写真がHPに掲載されておりますので、ご覧になって下さい。

<sup>12</sup> 初戦は石川県の強豪にして日本代表の本田の母校星稜高校ただだけに、厳しい戦いが予想されましたが、羽黒の本街監督のお話ですと内容も伴った形で2-0の勝利を収めた、とのこと。そして、ベスト8に進出してみて、「山形のチームの方が前からガンガンボールを奪いに来るから、山形のチームとやっから全国大会に出たら案外楽に戦えた」と仰っておりました。山形で育つと強いチームが出来上がるという新しい流れ誕生か。うれしい報告でした。

ず、早い失点を予想させる。「おいおい、大丈夫かよ。モンテ B 戦では同じような立ち上がりから運良く試合の入りは無失点で乗り切ったけど、これじゃあ、うまく行きそうにもないよ」と、顧問は早々にあまりのチーム力の違いに戦況を悲観していると、案の定、開始 5 分ほどで寄せ切れず奪い切れない所をゴール前で繋がれてファインシュートでネットを揺らされる。もちろん寄せ切れず奪い切れないのは、東海の選手が非常に力強く巧みであるからなのですが、ゴール前に山東の守備者はたくさんいるだけに、何とかならなかったか(たとえば別な選手をマークしているがボールの近くにいた選手が、自分のマークを離してでも東海のボール保持者を早めに挟みこんでいたら、ゴール前でのパスの前にクリアできたのではないか)。追加点もすぐやってきました。ゴールポストすぐ前のゴチャゴチャからバックパスを通され、フリーでシュートを打たれ、簡単に失点。どうして、バックパスを受けたらすぐシュート打てる選手をフリーにし続けられるか、判断力のあまりの欠如に唖然とする失点でした。開始 10 分で 2 失点。その後も、全く山東に良いところがなく 0-3 で前半終了。

ハーフタイムでは「実力 3 部のチームがバリバリの 1 部のチームと試合をさせてもらってるんだから、ありがたく試合をしろ」と選手に伝える。前半の出来は大変まずく、東海としても相手にまったく手応えがないまま前半を終えたでしょうが、山東の不甲斐なさに全く左右されることなく東海の選手は貪欲に得点を目指し、球際でも本当の厳しさを見せ続け、緩みなく戦っておりました。正直、相手のレベルに左右されず緩みなく戦い続ける東海に敬意すら覚え、試合させてもらっているだけでありがたいという気持ちを本当に持ちました。

後半は、されにメタメタの出来で、ギタギタに蹂躪されました。力の違いはあっても、力の差をスコアの差にしない粘り強さにこれまで山東サッカー部のアイデンティティを見いだしてきましたが、その看板はそろそろ下ろさなければならないのかもしれないかも。5 点ぶち込まれ、結局 0-8 の完敗。もちろん東海の強さにやられたのですが、やられ方としては、相撲に例えるなら、東海の圧力に土俵際まで押し込まれ土俵外に足を割ってしまったのではなく、最初のぶつかり合いだけでよろけて一人後ずさり、勝手に土俵を割ってしまったという形の、非常に情けないやられ方。東海の選手たちも、「え、こんなんで(こんなに簡単に)点取れていいの?」と唖然としたのではないのでしょうか。ん~、いくらなんでも情けなすぎる。力の差はあってももう少し粘れたのではないか。思う所はありますが、とにかく何を改善したらいいのか、具体的に分析できない(すべて悪いとしか言えず、あのポイントをこう改善すると良くなるとすら思えない)負け方。

次の羽黒戦に不安を覚える負け方でしたが、気持ちだけは切り替えて、臨みたいと思います。ちょうど今週末は学校祭があり、練習に打ち込む環境にはないので、リフレッシュした姿はお見せしたいと思います。

不甲斐ない敗戦の翌戦も応援よろしくお願いします。

8 月 27 日(月) Y1 羽黒戦 @山形市陸上競技場 10:00~